

と き め き

市民の視点で
市民がつくる

東久留米の男女共同参画情報誌

NO.
74

2025 秋冬

【特集】 東久留米市「男女共同参画都市宣言」25周年を迎えて

25年でこんなに 変わった! 変わった? 変わらない??



25年で
こんなに

変わった!

変われた?

変われな〜??

男女共同参画都市宣言

わたしたちは
生まれたときから平等です
性別に関係なく
年齢に関係なく

わたしたちは
互いに人権を尊重し 責任を分かちあいます
家庭でも
学校でも
職場でも
地域でも

わたしたちは
さまざまな分野に参画して
個性と能力をいかし
一人ひとりが輝く
差別のない社会をきずきます

わたしたちは
水と緑に恵まれた このまちを受けつぎ
地球の環境をまもり 平和の輪をひろげて
男女がいきいきと暮らす社会をつくります

2000年(平成12年)10月1日

東久留米市は、すべての人がその性別にとらわれることなく、互いの人権を尊重し、また自らの意思で行動し等しく責任を担い、思いやりを持って生きる社会の実現をめざし、2000(平成12)年10月1日に「男女共同参画都市宣言」を行いました。

今号では宣言からの25年を男女共同参画の視点から振り返り、編集委員が注目した出来事を加えて年表を作ってみました。

この都市宣言に至るまでには、世界の大きな流れと、それを受けた国内の動きがありました。

国連は、女性に対するあらゆる差別をなくし、男女平等を達成することを目的として、1979(昭和54)年に「女性差別撤廃条約」を採択し、日本も1985(昭和60)年にこの条約を批准しました。

その後、国内では1999(平成11)年に「男女共同参画社会基本法」が成立。地域における男女共同参画社会づくりを推進するため、国内各地の複数の都市で独自の男女共同参画都市宣言が行われました。東久留米市でも市がめざす男女共同参画社会とその実現に向けて、市制30周年を迎えた2000(平成12)年10月1日に「男女共同参画都市宣言」を行いました。

東久留米市の「男女共同参画都市宣言」は性別も世代も異なる起草委員(一般公募市民と学識経験者)が作成した原案に、広く市民の方々の声が反映された「市民の手でつくられた」ものです。

25年前に作られた宣言文ですが、その内容は今も色褪せることなく引き継がれています。

★東久留米市「男女共同参画都市宣言」については『ときめき』55号(2015年)、63号～65号(2019～2020年)でも特集しています。市のホームページからぜひご覧ください。



ときめき

2000年

東久留米市
「男女共同参画都市宣言」

全国初の
女性知事誕生
大阪府

国民すべてが、性別に関係なく、
個性と能力を発揮できる社会
の実現を目指して!



1999年

●「男女共同参画社会基本法」公布・施行

1993年、1994年

中学校・高校で家庭科男女共修

1991年

「育児休業法」成立

1985年

「男女雇用機会均等法」成立
「女性差別撤廃条約」批准(日本)



START!!



90年代後半から2000年
「ブルマー」

女子児童・生徒の体操着がブルマーからハーフパンツに変更された

「お茶汲み」

ブルマーが体育嫌いを増やしていたはず、助かった女子はたくさんいたのでは? (H)

職場では「新人の女の子がお茶を入れる」というのも決められた仕事のひとつだった。同期の男性たちと同じ職種で採用されたにもかかわらず…… (N)





80年代の記憶とZ世代以降への期待

女性差別撤廃条約から男女雇用機会均等法成立までの盛り上がりや、80年代フェミニズムについての記憶は、もう「今は昔」の話になってしまっています。当時は、持論をぶつけ合う論客の姿が大手メディアでも「普通に」取り上げられていました。しかし、2000年前後に、ジェンダー平等の論調はなぜか大後退。今となっては信じられないかもしれませんが、「ジェンダー」という言葉さえ使用をはばかれた雰囲気、確実にありました。一方、エンタメコンテンツでは、アニメ『ふたりはプリキュア』など、新しい物語が生み出されていました。2013年、ディズニー映画『アナと雪の女王』では、画期的なヒロイン像に新時代を感じました。20世紀を知らないこどもたちが、社会の中心を担うようになったとき、どんな変化が訪れるのか、見守っていききたいと思います。

(H/昭和生まれ)

編集委員のコラム

■ 国連・国・都の動き

■ 東久留米市の動き & センター事業

■ 編集委員が注目した出来事など

知的障害を持つ児童の理解を助ける性教育授業の内容が不適切だと非難され裁判に発展した問題。男女共同参画社会を後退させる事件として大きな注目を浴びた。

当時、地元では語り合えない趣味や価値観を全国の同世代とオンラインで共有し始めた。SNSの走りでもあり、男女を問わず趣味や表現を通じた“ゆるいつながり”が生まれた。(A)

2000年代前半、2ちゃんねるや個人イラストサイト、各種掲示板が盛んに使われ始めた。地元の友人だけでなく、投稿サイト・交流掲示板を通じたネットワークが広がる。こうした経験をした人たちが現在、子育て世代となっている。

国連女性機関 (UN WOMEN) 発足
(ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのための機関)

センター事業
シネマ de おしゃべり
スタート
(2004年までは「ビデオ de おしゃべり」)

七生養護学校
(現：都立七生特別支援学校)
事件



コミック『大興』の連載が雑誌『MELODY』で始まる
よしながふみ/白泉社
男性だけが感染する疫病のため、家督を女性が継ぐようになり、女性将軍のために男性による大興ができ、幕末を迎えたとき……という設定の漫画。

男女平等推進センター
条例設置
(本町に移転)



テレビアニメ
『ふたりはプリキュア』
放送開始

個人ホームページと
イラスト掲示板
全盛期

映画
『ホテル・ルワンダ』
日本公開
(監督/テリー・ジョージ)



『ときめき』28号発行
「女性情報誌」から
「男女共同参画情報誌」に

「DV防止法」制定
(現・配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)



「改訂版
東久留米市
男女平等
推進プラン
(第3次行動計画)」
策定

内閣府
「男女共同参画局」
設置

「男女共同参画
基本計画」
策定

2025年現在で
女性知事は2人！
(東京都と山形県)
もっと増えたら
いいよな～(W)

『ホテル・ルワンダ』

—映画が私の人権意識を芽生えさせた—

映画の中で今でも忘れられない会話がある、ホテルマンが報道記者に問いかけるシーンだ。

ホテルマンが言う「あの残虐行為の映像を流せば、必ず誰かが私たちを助けに来てくれる」

記者「世界の人々は、あの映像を見て「怖いね」と言うだけでディナーを続けるでしょう…」

ホテルマンは唖然とする…まるで「そんな人間がいるのか？」というように…

…いた、ここに。
知ったのに何もしないワソ野郎、見ているだけのキモい奴。それが、私だ。人は皆自分のことで精一杯だ、そんな存在を知ったところで「しょうがない」

で片付く。

だけどほんのちょっとでいい、想像してもらいたい。幼い我が子を目の前で叩き殺される親の絶望を。両親がナタで切りつけられるこどもたちの悲しみを。殺される前にレイプされる女性たちの恐怖を。

その1万分の1でも想像できるなら「しょうがない」なんて言葉は一瞬にして消し飛ぶ。

私はすぐにルワンダのこどもたちを支援するプロジェクトに応募した。

約20年前の「ホテル・ルワンダ」が自分を変えた。

歴史上の出来事や人物を知るほど、無知で無関心な自分が恥ずかしく思えた。だからこそ手の届く身近な出来事には敏感でいたいと思う。今こうして『ときめき』に思いを書いているのも自分の新たな変化のひとつだ。

(K/昭和生まれ)



20年前と何が違うか ―Z世代が見てきた変化―

私はいわゆるZ世代で、失われた30年をじかに体験してきました。小学生ぐらいのこどもだったころは大手電化製品を筆頭とした日本ブランドが世界一であり、大企業の安定したレールに載れば人生が安泰とされていた時代だと認識しています。

あの時代はまだいろいろな余裕があり、家族構造も祖父母と三世代で同居している家庭もそれなりにあり、こどもから高齢者まで一帯で関わっていた社会でした。

そこから現在は一変し、経済では中国などの台頭により日本ブランドは衰退の一途となりました。そこから各家庭は余裕がなくなったと思います。

社会構造も多様化し、家族の形も核家族の共働きが増え、夫婦のみの世帯や単身世帯も多くなりました。スマホの普及にともなうSNSの発展により個人間のコミュニケーションの取り方も対面・電話からチャットなどへと軽やかになってきたと思います。

正直、20年前の方がGDPや経済成長率としては良かったのですが、働きやすさなどを比較した場合どちらが正解かは分かりません。

また、SNSの発展はあらゆるものを可視化もしてくれました。それにより、上手い面・社会が包括していたパンドラの箱を開けた面もあるでしょう。時代の良い面を継承しつつ、次代は更なる発展があることを切に望んでいます。

(T／平成生まれ)

最初はゲイに対して偏見や思い込みがあった弥一を見て、私の中にも偏見があったと気づいた。みんなで食卓を囲んだり、近所を散歩したり、共に過ごす日常がほんとに幸せ。(W)

2012年15歳のときに母国のパキスタンで、タリバンによる女性教育弾圧に反対したことを理由に銃撃を受けたが、その後も活動を続けた。

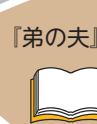
バンドブーム真っ只中で過ごした中学生時代、勿論大好きでした！(K)

フェミでバブリーな時代に乗ったプリンセスプリンセス。商業的でもあったが、自作の詞と曲にこだわったメンバーの姿は同世代に大きな影響を与えた。結婚・出産を経て、東日本大震災の翌年に変わらぬ姿を見せたことも彼女たちが旧来の女性像とは少し異なることを示した。



コミック『弟の夫』連載開始
田亀源五郎／双葉社

小学生の娘を育てるシングルファーザーの弥一のもとに、双子の弟の結婚相手であったカナダ人男性のマイクが訪ねてくる。



『弟の夫』

マララ・ユスフザイ
ノーベル平和賞受賞

アニメ映画
『アナと雪の女王』
が大ヒット
(監督／クリス・バック、
ジェニファー・リー)

2013年

プリンセスプリンセス
再結成
1983年に結成された
ガールズバンドのバイオニア



2012年

「男女共同参画
社会の形成をめざす
東久留米市
第2次男女平等
推進プラン
(第4次行動計画)」
策定

基本理念

“東久留米市男女共同参画
都市宣言に基づく「互いに
人権を尊重し、男女がいき
いきと暮らす社会」の実現”

★『ときめき』48号で特集



東日本大震災

2011年

この震災では女性たちをめぐる多くの困難が表面化し、それをきっかけに防災分野への男女共同参画の視点の強化や女性の参画が強く求められるようになりました。

★『ときめき』67号で特集



センター事業

ひがしくるめ
ハナサク biz
(女性の起業・
ソーシャルビジネス支援
ネットワーク) スタート



2017年



男女平等推進センター
市役所内に移転

「東久留米市第
3次男女平等推進プラン」
策定

2016年

2018年

「候補者男女均等法」施行
(政治分野における
男女共同参画の推進に
関する法律)

各年テーマ

2015年「男性にとっての男女共同参画」
2016年「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」
2017年「防災と男女共同参画」

「女性活躍推進法」
成立
(女性の職業生活に
おける活躍の推進に
関する法律)

渋谷区、
世田谷区が
国内ではじめて
「同性パートナーシップ
制度」を導入

センター事業

沿線3市
(清瀬・西東京・東久留米)
男女共同参画連携事業
＜多摩島しょ広域連携活動
助成金を活用＞
(平成27年度～平成29年度)

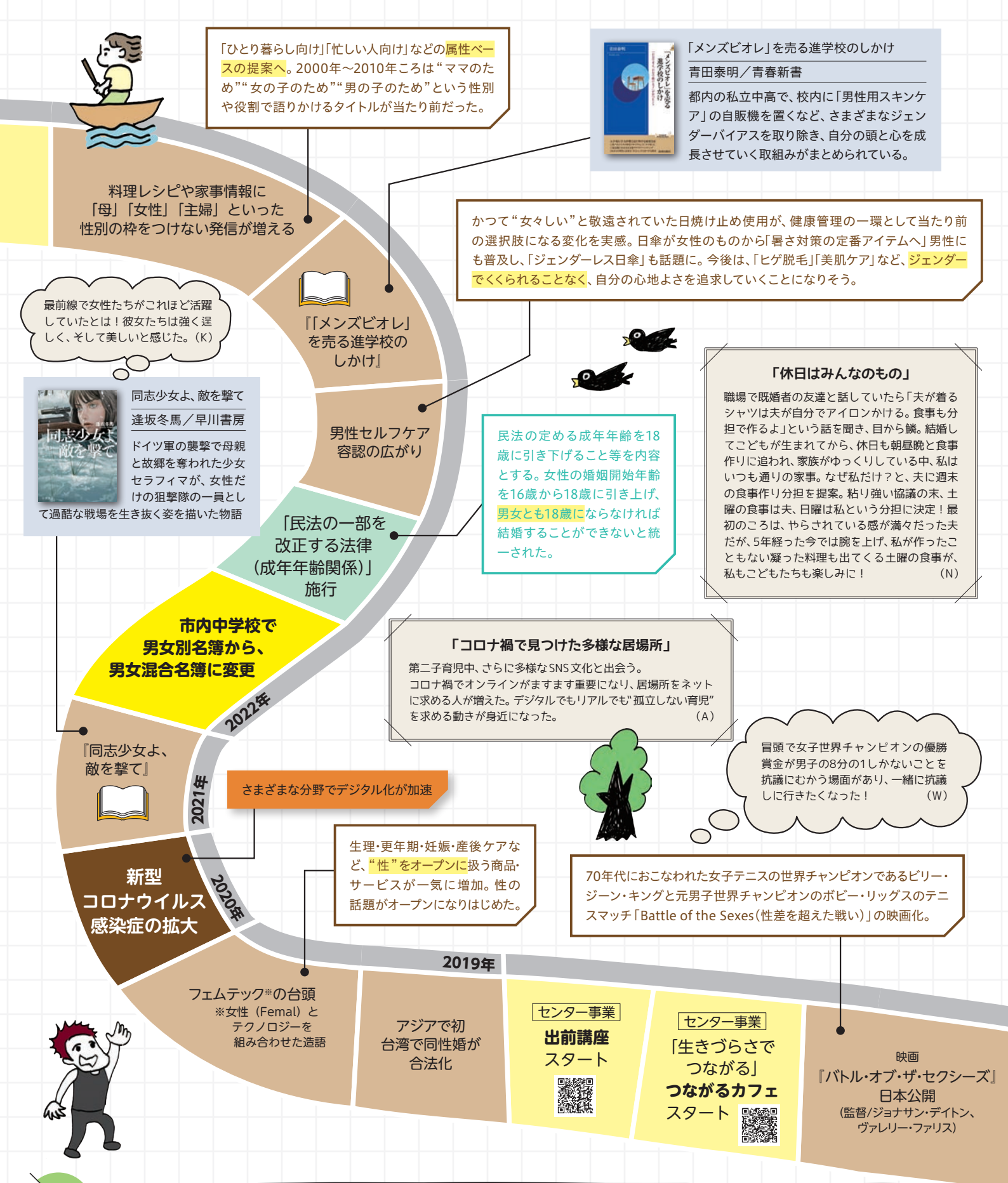


「SNSが癒しでもあり依存でもあったころ」

第一子の育児中、SNSを夜中に見るのが癒しと依存の両面を持っていた時期。SNSは孤立育児の支えでもあり、同時に睡眠不足や情報疲れを引き起こした。これも「育児と社会」「支え合いの場」として考えるきっかけになった。(A)

基本理念

“新たな舞台で 男女が参画
男女が活躍 ともに認め合い
ともに暮らしをつくるまち
東久留米”



声をあげることを諦めたくない

「どうせ変わらない」と諦めず、自分の気持ちを言葉にして出すこと。それが、今を生きる私の行動になった。こどものころに抱えた苦しみを、大人になった自分が汲み取り、次の世代のこどもたちが健やかに生きられる社会を願っている。声を上げることが怖かったけど、SNSなどの発達で、安心して表明できる場も増えた。この25年で、声が届く可能性が増えたことは、大きな変化だと思う。

2011年の東日本大震災では、避難所での性被害が深刻な課題となった。声をあげにくかった状況から10年以上を経て、ようやく被害を語れるようになり、性暴力を発生させない避難環境づくりや倫理的な啓発が始まっている。監視カメラや法改正といった制度的対応も進み、社会全体で「声をあげることを」支える基盤が整いつつある。さらに近年はフェムテックの普及や、医療監修付きの安心できる性や身体の情報サイトも誕生した。タブー視されてきた話題がオープンになり、「知ることを守る」流れが広がっている。この変化こそ、25年の歩みが形にした大きな力だと感じている。(A／平成生まれ)

大手芸能事務所創業者による、長年にわたる性加害問題が表面化。男性も性的虐待に遭うという代表例。こどもへの性犯罪、**人権侵害の問題**を改めて考えるきっかけとなった。



★『ときめき』71号で特集

基本理念
「互いの人権を尊重し、個性と能力をいかし、ともに参画するまち東久留米」



編集委員が参加しました

はじめての楽器の演奏から曲作り、合間で護身術も習ったりしつつ、メンバー同士の対立も乗り越えてたどり着いたライブは最高！それを支える大人たちは少女たちのサポートや安全な環境作りに徹していて、素晴らしい活動だと感激した。(W)

2023年

「東久留米市第4次男女平等推進プラン」策定



「東京都パートナーシップ宣誓制度」運用開始

センター事業

シネマ de おしゃべり

上映作品『ガールズ★ロック』
(監督 / アルネ・ジョンソン & シェーン・キング 2007年)

性加害問題がメディアで取り上げられる

「LGBT理解増進法」施行
(性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律)

編集委員が参加しました

自分の中にも「アンコンシャス・バイアス=無意識の思い込み」がこんなにあったのか！と、講座で実感。例えば娘に「女の子だからお手伝いして！」と言ってしまったり、「～するべき」「普通は～」というような自分の思い込み言動に気付き、これはアンコン？と意識するようになったことで、見える世界が変わってきた。(N)

刑法の性犯罪規定改正

センター事業

あなたの気づきで子どもの可能性を広げよう

センター事業

子供・長寿・居場所(3C)区市町村包括補助事業
(令和5年度～令和7年度)

「男性の家事育児参加促進のための講演会および地場産野菜の収穫と料理教室」



「強制性交等罪」が「不同意性交等罪」に。また「性交同意年齢」が16歳未満に引き上げられた。

★『ときめき』72号で特集



無意識に刷り込まれている偏見や先入観に気付かされた。性別を超え『人間とは？』という問いはまだ空欄のまま…(K)

男女とも仕事と育児・介護を両立できるようにさまざまな視点からの改正がなされた。

★『ときめき』73号で特集



女性に限定して定められていた再婚禁止期間を全面的に撤廃。女性も男性と同様に、離婚後すぐに再婚することが可能に。

「民法の一部を改正する法律(再婚禁止期間の廃止等)」施行

2024年

「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」施行

「育児・介護休業法」改正／2025年から段階的に施行

『ジェンダー・クライム』



『男子校の性教育 2.0』



ジェンダー・クライム

天童荒太／文藝春秋

クライムサスペンス小説。フィクションとはいえ現代社会の抱える問題や葛藤が物語を通して露呈されていく。

センター事業
暮らしの中のアサーティブ～さわやかな自己表現法を知ろう～

編集委員が参加しました

ロールプレイを通じて、頭だけでなく体が自然と「言いたいことを言う」ことを覚えた気がします。特に、相手を変えようとせず「自分ができること」に目を向ける方法は、日常でもすぐに試せそうで心強かったです。(A)

男子校の性教育 2.0

男子校の性教育2.0

おおたとしまさ／中央公論新社

性教育とジェンダー教育について全国すべての男子校に独自アンケートを実施。具体的な事例を追加取材して紹介している。積極的に取り組むケースに意外にも伝統校が多いことが分かった。

デジタル化に追いつけない!!



コロナ禍を経て私が最も変わったと感じるのは、社会のデジタル化です。

病院・映画館・商業施設の予約、飲食店での注文、ネットショッピング、学校への連絡など、生活のあらゆる場面でデジタル化は進んでいます。今まで並んで待っていた時間が短縮され、混雑が緩和され、学校連絡も時間を気にせず済むなど、インターネットを使うことで便利になることも増えました。

が、しかし…。これまでデジタル機器に触れる機会が少なく、苦手意識を持つ人にとっては、以前よりうまくできないことが増えてしまった面もあります。私の母は80代半ばですが、病院のネット予約、スーパーでのレジ支払い、飲食店でのタブレットを使った注文が難しいなど、困ることが増えたようです。(80歳以上の高齢者でインターネットを利用している人は半数にも満たないという調査結果も出ています／総務省・令和6年度「通信利用動向調査」より)

社会のデジタル化はサービスを提供・管理する側、される側の両方にとってメリットがあつてこそ。さまざまな利用者を想定した活用支援が充実することで、社会のデジタル化が浸透し、より多くの人々がデジタル化の便利さを実感できるようになるのではないのでしょうか。

家に居ながらさまざまな手続きができたり、欲しい情報を集めたりできるのは、身体が思うように動けなくなった人にとっても大きな助けになります。ただ年齢とともに、新しい技術や変化を受け入れ、活用することが難しい面もあります。それらの問題も考慮しつつ、何のため誰のためのデジタル化なのかを見失わないサービスや技術を作っていくことで、誰もが社会と繋がりが、より豊かで便利な生活を送れる社会になっていくのだと思います。(N／昭和生まれ)



居場所(コミュニティ)が必要

家の外に出ると、公園やスーパー、路上にベンチがあれば、そこに誰かが座り誰かと挨拶をしたり雑談をしています。道で立ち話をしているのは主に女性で、自転車を引いている人だったり昼の時間帯であることから「主婦」に見えます。

専業主婦の場合、主に家の中にいるので付き合う人の範囲は家族や隣人などに限られます。もし夫の両親との同居で緊張関係があったら家で休まることはありません。

夫や子どものことで悩みがある、ちょっと愚痴りたい、悩みを聞いて欲しい…そんなとき、昔だったら家の外の共同の井戸にちょっと水をくみに行っ

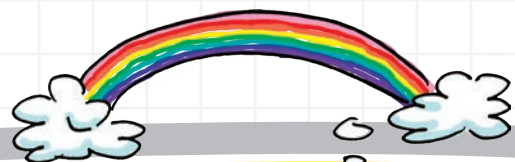
は他の主婦と井戸端会議をしていたのでしょう。家の中にいることが多かった女性にとって、一時的に外で集まる場は特に必要だったのです。

1985年に男女雇用機会均等法が制定され、家から仕事で外へ出る女性は増えました。

オンラインで家の中からでも人とつながることも可能になりました。しかし家の中で孤立しているのは女性だけに限りません。また、単身で暮らす人や、家族・友人やSNSのフォロワーが多くいて人に囲まれている人も、個別の理由があり孤独を感じる時があります。

ひと息つけるような一時的に集まれる場所は常に必要とされています。

(W／昭和生まれ)



東久留米市 「男女共同参画都市宣言」 25周年



『関心領域』

—映画が警告する“今”の危うさ—

静かにそして淡々と、人間の持つ醜悪さが映し出される。映画を見たほとんどの人が登場人物になんとも言えない薄気味悪さによる嫌悪感を抱くはずだ。

地球上で最もグロテスクな生き物は人の姿をしていました。

ここでも行われる「無関心の暴力」。

たった壁1枚を隔てた向こうで、日々虐殺が行われていたら…まともじゃられない。

本当に？

「100m離れていたら?」「100キロ先なら?」「遠い国なら?」

今も戦争は行われ、日々何十人、何百人の命が奪われている。

物理的な距離があるなら無関心になっていい、という理由にはならない。あなたは“登場人物”にならない自信はありますか?

日々流れてくるのは耳を塞ぎたくないようなニュースばかりだ、それでも無関心になってはいけぬ。優しさとは想像力だ、その人を想うことで思いやりが生まれる。

まずは想おう、その人たちのことを。

そして話そう、その人たちのことを。

そして伝えよう、決して忘れないように。

その先に「行動」や「変化」があると信じて…

(K／昭和生まれ)

「独立行政法人
男女共同参画機構法」
成立



ドラマ
「アドレセンス」
(Netflix) 配信

SNS上でのイジメやジェンダー問題などがドラマの進行と共に浮き上がり、同じような年頃のこどもを持つ親として、このドラマに出てくる親の苦しい気持ちが痛いほどよく分かる。
大人でも現実が嘘が見分けられない情報や映像に常に触れているこどもたちの心をどうやってフォローしていけばいいのか、社会や大人は何ができるのか、考えさせられるドラマだ。
(N)



編集委員が参加しました

「子育て世代ならではのリアルな悩みや希望が次々と出てきて、とても学びが多かったです。」 (A)

センター事業
フィフティカ
スタート
第1回
「未来の子育てを
デザインする」

2025年

映画
『関心領域』日本公開
(監督 /
ジョナサン・グレイザー)

2023年カンヌ国際映画祭グラン
プリ他、多数の賞を獲得



センター事業
「生きづらさでつながる」
つながるカフェ
(2018年スタート)

センター事業
自分の声を表現する
～ZINEという
メディアを通して～

今号の特集では

「東久留米市男女共同参画都市宣言」からの25年を振り返りました

宣言からの25年を振り返り、一番大きく変わったと感じたのは、現代の若者たちが情報の溢れる環境の中で育ち、その価値観が著しく多様化していることでした。

未来のこどもたちには「自分が心地いいからこれを選ぶ」、と安心して言える世界であってほしい。誰にも笑われず、誰にも否定されず、「あなたはそうなんだね、いいね」ってお互いに認め合える社会に。そのために、大人の私たちが、今少しずつ世界を変えていきたいと思います。

(A)

編集委員が参加しました

同じ“もやもや”を抱える人たちと、そっと言葉を交わすだけで、気持ちが軽くなる瞬間がありました。」 (A)

編集委員が参加しました

さすが東久留米市！若者にじわじわと支持されているZINEカルチャー。少し前から目をつけていたようだ！私の地上での活動はこれをきっかけとして始まりました。
(K)



「男女共同参画週間」展示 & 「みなさんの『はて?』」

内閣府では「男女共同参画社会基本法」の公布・施行日である平成11年6月23日を踏まえ、毎年6月23日から29日までの1週間を「男女共同参画週間」としています。

フィフティ・フィフティでは皆さんにご自身の身近なテーマから男女共同参画について考える機会を持ち、理解を深めていただくために、毎年男女共同参画週間に展示を行っています。

今年も昨年に引き続き、展示期間中に「みなさんの『はて?』」を募集しました。今年のテーマは「ジェンダー」に関する無意識の「思い込み」「偏見」に関する「はて?」でした。

皆さんからいただいたたくさんの「はて?」は市のホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。



「はて?」



男女平等推進センター（フィフティ・フィフティ）

■所在地 〒203-8555 東久留米市本町三丁目3番1号(市役所2階)
TEL: 042-472-0061
FAX: 042-472-1131
メール: fifty2@city.higashikurume.lg.jp
■開館時間 午前9時～午後5時

■休館日 土曜日・日曜日・祝日
年末年始(12月29日～翌年1月3日)
■事業内容 講座開催／情報提供
女性弁護士による法律相談／女性の悩みごと相談
男女共同参画情報誌『ときめき』の発行
図書コーナー／交流スペース



フィフティ・フィフティ

■専門相談のご案内

ひとりで悩まず、ご相談ください。

女性弁護士による法律相談

女性問題に詳しい女性弁護士が相談に応じます。
(年度内1人1回限定)

相談無料 秘密厳守

女性の悩みごと相談 (女性限定)

親子の関係、恋人からの暴力、その他の人間関係や生きづらさなど、さまざまな悩みについて、女性カウンセラーが相談に応じます。

*日程の詳細は毎月広報15日号(1月は10日号)に掲載。
*どちらの相談も予約制(先着順)です。
*詳しくはフィフティ・フィフティにお問い合わせください。

		専門相談予定表 (相談日／相談時間)				
		女性弁護士による 法律相談	女性の悩みごと相談			
			①③10:00～15:00／②14:00～18:00／④14:00～19:00			
	9:30～12:30		①	②	③	④
10月	3日(金)	6日(月)	3日(金)	20日(月)	27日(月)	
11月	7日(金)	7日(金)	10日(月)	17日(月)	28日(金)	
12月	5日(金)	1日(月)	8日(月)	15日(月)	22日(月)	
1月	9日(金)	5日(月)	13日(火)	19日(月)	26日(月)	
2月	6日(金)	2日(月)	9日(月)	16日(月)	27日(金)	
3月	6日(金)	2日(月)	9日(月)	16日(月)	23日(月)	

「ときめき」は

年2回発行。公募の市民による編集委員6人が企画編集しています。

男女平等推進センター、市役所、東久留米駅で入手できます。最新号とバックナンバーは市のHPでもご覧いただけます。



ときめき



前号へのご感想、ありがとうございました！
“あなたの声”を聞かせてください！

ご意見はこちらから(おハガキ・お電話・メールでも)

編集後記

- 最近のトレンドは「正義」らしい。あっちもこっちも自分の正義をじゃんじゃん振り回してる。不思議だ、ここから見ると皆んな悪者に見える。ん～、正義ってなんだっけ? (K)
- 25年前と今を比べると、性別意識せず暮らせるようになってきた。食事が美味しく、医療は進化して便利になった(夏の暑さは昔に戻したい) 今が最高～と言い続けられるように行動したい。(W)
- 長くそんな気配もなかった友人が結婚した。夫婦別姓を選択できるまで待っていたが、しびれを切らして彼の方が姓を変えたと。世の中変わったような、変わらないような。(H)
- そろそろ男とか、女とか、言っている時代ではないのかも。(T)
- まだ SNS に翻弄されている10代の次女と、20代になり SNS を自分のために上手く利用できるようになった長女。SNS との付き合い方で子どもの成長を感じる。(N)
- 自分ととなりさん、みんなの毎日のこと。それが男女共同参画。積み重ねられた道が今に繋がっている！この年表をきっかけに語り合いを広げていけたら嬉しいな。(A)